

刊夕日四廿月貳拾  
**常 警 日 新 報**

定部一圓五分  
廣告料五號十二字一圓五分  
日曜祭日の翌日休刊  
發行所 常警日新聞社  
電話 六三〇  
印刷所 常警日新聞社



お父さん落第 (上)

榎 葉 勇

私には明けて七つになる男の子があるが、私が小さい時にさうであつた如く大變お話が好きである。毎晩寝るときには枕許でお話を聴かせてゐるうちにいつのまにかすや／＼寝入つてしまふのであるが、このお話を聴かせる役目は母親か父たる私かどちらかである。近頃は忙しいので私が聴かせることは滅多にな



眸よ (満壽江におくる) 木津 茂太郎

母親が何か用のあるときに私がたまたま話す位だが私は勿論妻よりはるかに話が上手だと自惚れてゐる。子



今をときめくヒツトラーも二十年前歐洲大戦勃發當時は一軍曹だつたムツンリニーは一伍長に過ぎなかつた

供に話すときもなか／＼巧妙に話し聴かせるつもりである。ところが子供は一向喜んでくれない。「お父さん、下手だ。お母さんの方が上手だ。」子供は正直である。上手

ひとみ、ひとみ…… 夜 千草山 秋人

窓だけが蒼く見へる黒潮のやうな夜空に貝のやうな月が浮び星は飛沫のやうに飛ぶ

絶望と歎息と空虚の囁き 誰だ 戸を叩くのは

【朝】味噌汁——大根 小井 生玉子  
【晝】牛乳 トースト ジヤム 又はバター フルーツポンチ  
【晩】かすの子 花か

冷たく隙間から流れこむが 白布に映る窓枠の十字架 向つて 私は懐疑の彌散を捧げる

今も尚故郷の かの木蔭に慰へなば 甦り來む そのかみの母か唄ひし 子守唄 今も尚故郷の

春の野に竹めば 小鳥唄ひ蝶遊ぶ 幼なき心胸にかへりて 荒れし心癒ゆ

忘年会や新年會には

是非御利用下さい 是節柄料理に——御酒に—— 萬事御希望に副ふやう勉強して御奉仕すると共に如何様にも出張御相談に應じます

魚清食堂 平二警察署裏通り 電話六三三

忘年会 新年會

萬事御希望に副ふやう勉強して御奉仕致します 御通知下されば當方より早速參上如何やうにも御相談に應じます 尚餘興舞臺が出来ました 平町紺屋町 住吉屋本店 電話一五九番

外科 X 光線科 性病科 外科

平町 田町 安齊外科醫院 電話四七五番

歳末謝恩……奉仕 靴!!! 三圓以上……一割引

◎期間 十二月三十日迄デ  
◎定評有る……大塚の靴  
◎絶対信用有る……大塚の靴  
たとひ呼値は安くも品が落ちては 御損では御座いませんが 實際良く——實際丈夫で 實際安い

御用は 大塚製靴部へ 平町田町 電話七七番

かまぼこ製造

お惣菜用 さつま揚 吉原揚 平町一丁目

不孫寛

電話一四一番

平消防組

當組第二部消防手堀滿正君十二月二十二日午前十二時三十分望樓勤務中突然發病療養不相叶遂に廿三日午前六時三十分殉職致候間此段謹告候也 追テ葬送ノ儀ハ十二月廿五日午後二時南町自宅出棺大寶寺ニ於テ佛式相營ミ申候 昭和九年十二月廿四日

月曜是非

歓迎迎の旗

役場の兵事課から軍人の歓迎迎に關する注意として長旗は一本のみにせよ、酒宴は廢せ、一つ何、一つ何と個條書きにした達しがあつた、此の眞意は無駄を廢して歓迎迎を飽迄も精神的なものにせよといふにあるらしい、一應首肯は出来るが、其後一般の状況を見ると、夫れが少しも勵行されて居ない、依然として幾流か數多い長旗が風に煽られて、軍人を有する家庭の門前を賑はして居る。

長旗は云ふ迄もなく一種の景氣付け以外に何等實用的の効果は持つて居ない、いはば無用の長物は是れに過ぎたるはないであらう。然るに是れが廢せぬ處に實用であるとかないとかの算盤の理攻めではどうする事も出来ぬ程、人心に深く食ひ込んで居るものがあるらしい。

是れが無駄だ、是れが無駄だと一々指摘したならば恐らく人間生活の大半は無駄と無用の蓄積と云つても過言でない、而し、無駄と見られ無用と考へられる事も、生活の修飾的役割りの上に可成り大きな力を以つて居る場合がある、假りに夫れ程の力がなくても是れある爲めに無味乾燥な人間生活に一種の潤ひを感じしめぬものでもない、斯かる考察に基けば

迎の旗の廢止も簡単な様で仲々簡單でない、従つて依然として長旗翻る光景を呈するのである、而し一度達しを出した以上、役場は面に

金一包也で

問題は解消

鑛毒問題圓滿に

鈴木代議士が調停

今春來抗爭紛紜中の玉川村對入山炭礦の藤原川鑛毒問題に關しては最近鈴木代議士等が調停に奔走中であつたが昨二十三日調停者から入山炭礦は玉川村に對し金一封を提供すること、兩者とも一切を水に流すこと

血ナマぐさ

兇器の數々

思はず栗立つ肌

刑事展けふ蓋開き

防犯週間の催物たる平警察署主催刑事展覽會は今二十四日から同署會議室に開かれてゐる

高麗橋を中心として

眞木翁の懷古事談

重大な任務を帯び

松浦氏サガレンへ

松浦家は藩政時代、百石取の上士の身分で、昌君の父即ち誠君の祖父賢三郎と通稱を久内幼名を敬三郎といひ、如石又確堂と號した藩の學者で、少壯にして

圖書展の

入賞兒童

既報平第三小學校の兒童圖書展覽會は去る廿二、三の兩日同校講堂に催され兒童の出品三百餘点を審査の結果左記十名が學校賞を授與された

- 一年清野勝群 二年小宅スミ 三年本多英治 五十嵐由祀子 四年千葉三好 野宮登美子 五年鈴木高光 林清子 六年志賀啓助 白土貞子

小作料全免

常磐銀行の温情

常磐銀行平支店では今二十四日付で川前村にある同店所有の水田小作者に對し小作料全免を發表したがこの温情に凶作地の同村民は何れも感泣してゐる

平町白米

値下

既報平穀物検査所管内の米價は本月初旬迄五等買入値が一俵十一圓四五錢の高外はない、但し松浦家の屋敷が、當時此杉平に在つた譯ではない、其居を杉平へトされたのは、全く最近の事であるのである。

歳末事故

平驛で防止

平驛は來る廿八日午前十時より同驛樓上に於いて各係主任の事故防止委員會を開き歳末の事故防止に就いて協議する

年賀電報が

豫定數突破

し宣傳に馬力を掛けた處各方面大歡迎で二日間の豫約申込が百六通料金を拂つた正式申込が廿通合計百廿六通あり同局の豫定數百通を突破し卅日の當日迄にはまだ々々増加する模様である

新舞踊の講習 石城第一區唱歌遊戯研究會の唱窟 夏通水海北辰天 山川靈假丹青手 津港華留錦繡篇 更有方今丈夫務 雄圖新策議安邊 函館港 如石 松浦 翼 飯帆萬風送扁舟 始到蜻 艇尾盡頭 欲建銅標天更 迥 北辰星下大瀛州

卓球選手權

廿日第二校で

平第三小學校卓球部主催の第四回部卓球個人選手權大會は明年一月廿日午前九時より同校講堂に開催されるが競技はトーナメント式個人試合に依つて郡下強豪の覇者を決定、優勝者にカツプが贈られる、尙申込は一月十八日迄に同校卓球部及び田町大塚運動具店へ申込まれ度いと

- 水竹 眞木 光 寸針分路片帆前 忠奮輕 野里里船 地接劉夷狼虎

- 丙寅四月奉命赴 北濱留別友人 如石 松浦 翼 此行休問奈愁何 自覺臨 岐意氣多 勃海長風船萬里 欲提雄劍叱龍 龍送松浦如石之瀛州 水竹 眞木 光 寸針分路片帆前 忠奮輕 野里里船 地接劉夷狼虎

# 天國に結ぶ

## 紅いしじょうき

### 山中奥深く 相擁した情死體

共に病む身を悲観して

である

### 榮光燦たり クリスマス

昨二十三日午後二時頃鹿島村大字走熊地内山林に二十五才前後の男女が紅いしじょうきで胴體を固く結び相擁して死んでゐるのを山仕事に行つた男が発見、平署を檢

聖教徒たち一年の最大行事であるクリスマスは最近平町地方でも一年毎に盛大に催されるやうになつた...

南町日基督教會では二十四日午後六時から基督降誕祭を

カルモチンを嚙下自殺したものと判明した、兩人の家庭は縁戚關係にあり數年前から物事が呼吸器疾患に罹つて以來女が同情して戀が

南町日基督教會では二十四日午後六時から基督降誕祭を舉行する清風園兒の遊戯、唱歌、日曜學校生徒の仕舞などで一夜を楽しく過す

芽生へるに至つたが昨春頃から遂に女にも感染、はかしく快癒しないので相思の二人は厭世の末「天國に結ぶ戀」を實行したものと

材木町ハブテスト平教會では二十五日午後六時から開き二十六番に亘る聖話、遊戯劇等何れも賑やかである

## 十九年間

### 知らずに

### 恩給生活

#### 一時に返せと

#### 恩給局の嚴達

十九年間夫の恩給約二千圓を受けて生活して居た末亡

人が最近恩給局から資格無しとして從來同人に支拂つ

た恩給金の返済方を迫つて居る平町搔樋小路居住久栖サダ(七)さんは廿年前當時石城郡書記在職中の夫久栖篤氏と死別しその恩給年額八十圓を支給される事になつたが夫人は事情があつて大正五年五月十二日久栖氏の戸籍より去り現在の肩書地に一戸を構へ久栖家遺族として本年迄十九年間半額八十圓宛合計千五百七十圓を受取つて居た處最近恩給局で同夫人の戸籍を取調べた結果大正五年の去籍と同時に給恩を受ける資格が失はれて居る事が判明したので去る廿二日恩給局ではサダさんに對し十九年間支

## 火の見で展望中

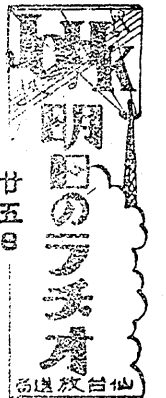
### 堀消防手絶命す

平町南町カザリ職消防組第二部消防手堀満正君は二十一日午前零時半頃夜警のため火の見展望に勤務中突然發病して卒倒直ちに自宅に運び療養に手當を盡したが二十三日午前六時半遂に永眠した同君は平消防組十五年勤続の模範消防手で不慮の殉職を悼まれてゐる

### 賀状増加

前年より二割三分

平郵便局の年賀郵便引受數は昨廿三日迄の三日間に一萬五千七百四十八通で昨年同期より二千七百四十九通二割三分の増加であると



今晩も明日も北西の風天氣良し

### 今晚の部

- 後六、二五 移植民謡座
- 移植民一般 拓務局長高山三平
- 後七、三〇 講演「本年文藝界の回顧」千葉龜雄
- 後八、〇〇 管絃樂 新文響樂團練習所より中繼
- 日本放送交響樂團指揮近衛秀麿
- 後八、四〇 民謡獨逸 クリスマス民謡 一、解説

### 明日の部

- 前九、三〇 子供の時間
- うた大正時代の唱歌 J.O
- 一青名畑富藏(三)同字加々美篤三(三)同字佐藤勝榮(三)同村宮字代畑山泰次郎(三)

### 坑夫達の

### 大賭博

#### 新選組が活躍

二十三日午後十一時頃内郷村大字綴字一ノ坪三七坑夫關澤薫肆方で坑夫の大掛りな賭博開帳中なるを密告によつて知つた平署では渡部温部長の率ひる新選組の一行急行、十丹賭博開帳中の前記關澤始め左記六名を一網打盡珠數織ぎにしたが場錢四十圓近くあり近來の大賭博であつた

### 留置場の

### 壁を挟み

#### 大聲で喧嘩

草野村澤帯二〇農中根西松(四)は廿三日午後内郷村某料理店で飲酒泥酔してリヤカーを引張つて歸宅の途次平町南町地内でルンペン風の男に突當つたことから口論となり掴み合ひを演じて

AK唱歌隊

- 前、〇〇 記念講演
- 「先帝の御盛徳を追慕し奉る」國府厚東
- 前、一〇、四〇 講演「大正十五年史」京大教授文學博士時野谷常三郎
- 前、一、一〇 趣味講演「豊太閣樂樂第の話」花見湖己
- 後、〇、五〇 室内樂 鈴木クワレット 鈴木鎮一外
- 後、一、二〇 琵琶 橋大隊
- 長 榎本芝水
- 後、一、五〇 箏曲 新雲月
- 花冬の曲菊平琴聲外
- 後、二、二〇 浪花節 辯慶
- 五條橋浪花亭愛吉
- 後、三、〇〇 ラグビー 試合

實況 大阪花園グラウン

- 後、三、〇 中等學生への音樂第一回音樂の摺み方伊庭孝
- 後、六、〇〇 子供の時間 長唄 筑摩川天原とし子
- 外小銀治高橋千枝子外
- 後、六、二五 講演「社會保險と健康保險」社會局長官赤木朝治
- 後、七、三〇 謡曲 蟻通觀
- 世喜之外
- 後、八、一〇 新講談「藤田東湖と西郷南洲」伊藤痴遊
- 後、八、五〇 大正時代の唱歌と流行歌大阪大阪奏樂團東京流行歌獨唱阿部秀子 岡崎二郎

### 平町でも賭博

#### 平町三〇土木業高橋大二郎

田町三〇土木業高橋大二郎内妻金成としみ(四)方で二十一日午後三時頃同人及び同町三丁目古物商岩田よし(六)植田町無職大津又吉(四)の三名で現金賭け賭博開帳中を平署員に發見檢擧された三名はいづれも賭博前科者で同署では常習者として引續き取調べ中

### 御神体が

### 消え失す

#### 四倉で大騒

四倉町宇新町愛宕神社の御神体が二十三日午後五時頃

### 今曉窪田劇場全焼

#### 原因に種々の取沙汰

西北の風吹き荒ぶ今二十日四日午前零時二十分頃勿來町大字窪田窪田劇場から發火、火は忽ち強風に煽られ同建物を一嘗めにし隣接の民家に燃え移り更に盛んな火の手に延焼を憂慮されたが消防組員必死の活動で同一時過ぎ漸やく鎮火した

原因に就ては種々取沙汰あり目下植田署で取調中であるが損害約七千圓であると

### 平町人 事

- 回 死 亡
- △一丁目一七 太郎氏母
- △白土ルイ(八八)
- △胡摩澤一五 藤吉氏長女
- △田山フミさん(一四)

